

卒業の準備 その3

「麦の唄」 中島みゆき

なつかしい人々 なつかしい風景
その総(すべ)てと離れても あなたと歩きたい
嵐吹く大地も 嵐吹く時代も
陽射(ひざ)しを見上げるように あなたを見つめたい
麦に翼(つばさ)はなくても 歌に翼があるのなら
伝えておくれ故郷(こきょう)へ ここで生きてゆくと
麦は泣き 麦は咲き 明日(あした)へ育ってゆく

大好きな人々 大好きな明け暮れ
新しい「大好き」を あなたと探したい
私たちは出会い 私たちは惑(まど)い
いつか信じる日を経て 一本の麦になる
空よ風よ聞かせてよ 私は誰に似てるだろう
生まれた国 育つ国 愛する人の国
麦は泣き 麦は咲き 明日へ育ってゆく

泥に伏せるときにも 歌は聞こえ続ける
「そこを超えておいで」 「くじけないでおいで」
どんなときも届いて来る 未来の故郷から
麦に翼はなくても 歌に翼があるのなら
伝えておくれ故郷へ ここで生きてゆくと
麦は泣き 麦は咲き 明日へ育ってゆく
麦は泣き 麦は咲き 明日へ育ってゆく

卒業生たちよ。一本の麦となれ。それぞれが一本の麦となり、大きく実りをもたらしてほしい。一本の麦は一本の麦の穂を生んで、また大地に根を張り、種となって更なる麦の穂を生んでいけ。やがては、多くの人々の飢えを満たし、渴きを潤わせ、明日へ育つことで次なる世代を培ってほしい。そして、やがてこの地に戻ってきてほしい。私は、心から待っている。